

この世の中には、わけのわからないものが沢山あります。カフェインのないコーヒー。眠くなっちゃいますよね。ノンアルコールビール。酔うために飲むものだと思ってました。辛くないラー油。刺激はどうなるのでしょうか。臭わないニンニク。あの香りが好きなのに・・・。

今に、甘くない砂糖とか、塩辛くない塩とか、酸っぱくない酢なんてものが現れる予感がします。

まあ、冗談はさておき、「田中さん、鈴木さん、駅、道順、教えてあげた」と言っても、わけのわからない文章ですよ。 「道順を教えてあげた」ことはわかりますが、誰が誰に教えたかはわかりません。 駅へ行く道順なのか駅からの道順なのかわかりません。 そうです！助詞がないとカフェインのないコーヒーみたいで、子供の飲み物になってしまいます。

『田中さんは鈴木さんに駅への道順を教えてあげた。』

『田中さんに鈴木さんは駅からの道順を教えてあげた。』

『田中さんは鈴木さんに駅からの道順を教えてあげた。』

『田中さんに鈴木さんは駅への道順を教えてあげた。』

このように、色々な場面が考えられます。自分の言いたいことを正確に伝えるためには、正しい助詞の使い方が大切です。

「どちらへ」と言えば、「どちらへ行きますか」という意味だとすぐわかります。

「どちらで」と言えば、何かするのだとわかります。「どちらから」と言えば、来たのかということだとわかります。でも、「どちら」と聞かれても、「何が」と聞き返したくなります。

しかも、助詞を間違えると聴衆が爆笑の渦に包まれることもあります。あるコンサート会場でのことです。可愛い歌手の卵が放った第一声！

『私は香港から生まれました！』